

# 東日本大震災からの復興における 木材利用と森林整備による雇用拡大

「森の貯金箱」プロジェクト

## 3.11 東日本大震災

### 岩手県沿岸部の林業の現状

- ・国内合板の生産量約**3割**を担う岩手県、宮城県の**6カ所**の工場が被災。
- ・岩手県宮古市・大船渡市においては県産の丸太の**3割**（約**30万m<sup>3</sup>**）を受入れていたが、被災後は1/3に減少、大船渡においては**工場再開を断念**。
- ・岩手県の林業は、**A材(建築)** **B材(合板)** **C材(チップ)**の出口が必要であるが、**B材(合板)**の受入れがストップした事により、森林整備(間伐)が進まない。

# 「森の貯金箱」再建住宅プロジェクト

- **B材を製材した柱材(3寸5分角)を連結し、壁面パネルを製作する。その壁面を使用する事で、従来の木造軸組工法よりも約3倍の木材を使用し、かつ再利用・移築が可能。**
- **被災地域の現状を踏まえ、壁面を工場生産・パネル化する事により、建築現場において短期間(約1カ月半)で施工が可能。**
- **森の貯金箱(Forest stock in building)の名前の通り、従来の木造住宅の炭素固定量の約3倍が期待できる。**



1,000万円/30坪再建住宅の提案が可能  
1棟建設=1haの間伐  
1棟建設=100人/雇用

# 「KDDI」様からの森林保全活動

東北地域の林業、及び被災地経済の活性化に向けた取組

フロンティアジャパン様から紹介を受け、釜石市様に協議した。



# 「森の貯金箱」バス停プロジェクト

- ・現在、被災地沿岸部においてJR・三陸鉄道の復旧には最低でも3~4年かかるとされており、唯一の交通手段はバスである。
- ・バス停自体も津波により流され、雨風をしのぐ屋根も無く、ベンチ自体も設置個所が少ない状況。
- ・「森の貯金箱」プロジェクトとして、B材を利用したバス停の待合室・ベンチを設置し、これから冬に向けて少しでも寒さから守りたい。

# 「森の貯金箱」バス停プロジェクトの効果

$$\begin{array}{ll} \text{バス待合室 薄型・中型} & 1.41\text{m}^3 \times 5\text{基} = 7.05\text{m}^3 \\ \text{バス停 ベンチ} & 0.53\text{m}^3 \times 18\text{基} = 9.54\text{m}^3 \\ & \text{合計} = 15.00\text{m}^3 \end{array}$$

木材を二酸化炭素固定量に換算すると  
 $15\text{m}^3 \times 0.314\text{t/m}^3 \times 0.5 \times 44 / 12 = 8.635\text{t-CO}_2$

バスが乗客1人を1km運ぶのに排出するCO<sub>2</sub>は51g

1日のべ50人が利用するバスとして平均利用距離を10km  
年間(300日)と計算すれば  $= 7.650\text{t-CO}_2$

バス停プロジェクトによる効果は  
間伐=0.40ha  
雇用=間伐に12人 製作・設置=150人  
バス一台分のCO<sub>2</sub>をオフセットした事となる。

# 市役所前バス停設置写真

バス待合所設置予定個所

- 1 道々(栗林町)
- 2 長持(鵜住居町)
- 3 新川原(鵜住居町)
- 4 日向回転所(鵜住居町)
- 5 市役所前(只越町)

木製ベンチ

市内18カ所

